



平成20年10月20日

国土交通省 道路局
局長 金井 道夫 様

長野県北安曇郡 小谷村
小谷村長 小林 三郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国企第37号で依頼のあった標記について別紙のとおり提出しますのでよろしくお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

当地域は、糸魚川静岡構造線上に位置し地質が脆弱で地すべりが発生しやすく、山間地のうえに豪雪地帯であるため住民の生活基盤整備のなかでも道路整備は基本的な事項である。小谷村と近隣の大町市・糸魚川市とを結ぶ主要道路は国道148号1本しかなく、自然災害や交通事故等で通行止めとなった場合は孤立状態となる。また近年北陸方面と関東方面を往来する大型車が原油等の値上がりにより高速道路を避けて国道148号に集中し沿線住民にとって非常に危険な状況となっている。特に冬期間も大型車の交通量が減らないことから大型車のチェーンの着脱時の事故やスリップ事故が多発し、2時間以上にわたる通行止めが1年に10回以上にのぼる。

また、国道より主要地域を結ぶ県道も未改良区間が多く、特に観光地と連絡する千国・北城線については梅池バイパスの1日も早い完成が望まれる。

更に集落が散在しているため村が管理する自動車通行可能な村道延長は165kmに及び、その維持管理に多額の費用を要している。

このような状況のなかで、都市部とは生活条件が大きく違うため「地域高規格道路の整備」および「国県道の整備」「生活道路の整備」は、安心安全な村づくりを推進するうえで、きわめて重要な施策である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

長野県 小谷村

○現状	○課題
・小谷村は国道148号が1本しかないため、生活面・救急面・観光面に大きな支障がある。	・地域高規格道路「松本系魚川連絡道路」は通勤圏の拡大、緊急車両の輸送、観光客の誘致に大きな役割を担う。
・国道148号は近年大型輸送車両が増加し、特に雨中地区においては騒音や振動により隣接住民の生活環境はきわめて悪い状況にある。	・過去に多くの住民が交通事故に遭遇している状況に鑑み「雨中バイパス」整備することにより産業道路と生活道路の区別を明確に図られること。
・国道より分岐する県道未改良により特に冬期間にスリップ事故等で渋滞が発生する。	・事業再評価の対象となるなど事業の進捗率が遅い。
・小谷村は集落が散在しており、村が管理する市町村道の延長が長い。	・住民生活を守るための「まちづくり交付金」等補助事業を活用し道路整備をすすめているが道路維持にかかる経費が多額であり、特に冬期間の除雪延長は112kmにおよび例年2億2千万円ほどの経費を要している。
・山間地域で公共交通機関も少ないため、1戸で何台かの車を保有しており、その経費も多額となり家計を圧迫している。したがって道路が整備されている都市部よりも車・燃料にかかる税等を多く支出している不公平感があり地方の道路整備は必要である。	・都市部と長野県を比較し、1世帯あたりの車の保有台数および年間走行距離は約4倍で自動車重量税取得税並びに揮発油税等では約3.3倍と家計に占める負担率は約4倍となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式③

②-2 地域の目指すべき将来像

長野県 小谷村

・道路交通網の整備が進むことにより、企業誘致や観光客の受け入れ条件を整えるとともに、地域住民にとっては緊急救急輸送路の確保や通勤圏が拡大し生活基盤が安定することにより、若者が定着し過疎化に歯止めをかけることで地域経済の活性化が期待でき、基本構想の「心やすらぎ美しい豊かな自然の小谷村」づくりを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

長野県 小谷村

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」早期完成 ・国道148号の整備促進 ・県道千国北城線の整備促進	・地域経済の活性化 ・緊急救急輸送路の確保 ・観光客の入込増	・過疎化の防止 ・若者の定着
・総合的な交通安全対策および危機管理の強化	・「雨中バイパス」の早期完成 ・橋梁の老朽化対策 ・通信システムの整備	・安心安全な住民生活	
・村が管理する道路整備の充実	・まちづくり交付金等補助事業による道路整備 ・除雪体制の強化	・生活環境基盤の基本的整備	